

「知の理論」(TOK) 所定課題

2022年11月試験セッション

受験者への注意事項

- TOKエッセイは、次ページに記載された6つの所定課題（問い）のいずれかについてのものでなければなりません。これらの所定課題は、「知識に関する問い」の形式で出題され、「知識の領域」(AOK) に焦点をあてています。このうちどれを選択しても構いませんが、その際には教師と相談することが推奨されています。
- TOKエッセイは、『「知の理論」(TOK) 指導の手引き』に記載された評価方法に則って採点されます。試験官は、選択された所定課題が明確かつ筋の通った論理で批判的に考察されているかどうかを評価します。
- 試験官は、選択された所定課題に基づいてエッセイを採点します。したがって、生徒は所定課題を出題の文言どおりいっさい変更せずに使用し、それに対する回答をエッセイにまとめることが非常に重要です。また、所定課題に含まれる引用文は、必ずしも実在の人物による言葉であるとは限りません。実際の意見を反映してはいるものの、それらが文献等からの直接引用ではない場合もあるということです。
- TOKエッセイは、生徒本人が取り組んだものかどうかの確認のために、担当教師によって提出されなければなりません。また、他の情報源を使用した場合は、標準的な表記法に則って出典情報を明記することが求められます。
- なお、TOKエッセイは、一般的なフォントサイズ 12 を使用し、行間の設定はダブルスペースで書くようにしてください。語数（字数）の上限は1600語（日本語の場合は3200字）とします。

1. それぞれの「知識の領域」のなかで、信用があることと力（権力）をもつことのどちらがより重要なのか。自然科学とさらにもう1つの「知識の領域」に言及しながら論じなさい。
 2. 心を開く姿勢を過度に追求した場合、それ自体が制約を受ける可能性はあるのか。2つの「知識の領域」に言及しながら論じなさい。
 3. 「問いかけることのできない答えをもつよりも、答えることのできない問いかけをもつ」ほうが良いことなのか（リチャード・ファインマンの言葉を一部改変）。数学とさらにもう1つの「知識の領域」に言及しながら論じなさい。
 4. 疑う余地のないエビデンスに到達できないことはよくあるが、それでもなぜ私たちはそれを捜し求めるのか。2つの「知識の領域」に言及しながら論じなさい。
 5. 「計測可能なものは計測し、計測可能でないものは計測できるようにせよ」（ガリレオ・ガリレイ）。この格言にどの程度同意するかを人間科学とさらにもう1つの「知識の領域」に言及しながら答えなさい。
 6. 歴史学者には認められないような方法で過去の出来事を解釈する自由が芸術家にあるのであれば、これは過去の理解に対する財産なのか、それとも障害なのか。芸術および歴史に言及しながら論じなさい。
-